

地域懇談会

「高齢者を見守り・支え合うために私たちにできること」 ～グループ討議における主な発言、意見等～

1月26日(日)、セシオン杉並で開催された高円寺地域区民センター協議会主催の「地域懇談会」には70名を超える町会・自治会など地域の皆様が参加されました。区(高齢者在宅支援課)担当者及びケア24職員の説明の後、8グループに分かれて活発な意見交換が行われました。

地域で見守る

- 商店を営んでいるので、高齢者のお客様には「何か困ったことがあれば何でも言ってください」と声掛けし、日々、コミュニケーションをとっている。
- 町会に入っていると、敬老の日のお祝い配布、町会費の集金などを通じて、近隣・地域の方たちをきめ細かく見守ることができる。
- 80歳以上の高齢者宅に敬老のお祝いをお届けする際に、小学生と一緒に訪問し、高齢者に喜ばれている。
- 近隣の方々がお互いに顔と顔が分かるように、お花見、パトロール、ウォーキングなどの参加を呼び掛けている。町会内の歴史探訪など企画している。
- 高齢者のところに踏み込んでいくのは難しいが、「相談できる所がある」ことを知識として広めていかなければならぬ。

見守り……話を聴いてあげる・話しかけてあげる

- 町会としての緩やかな見守りをしてきた。いつも一人で食事をされていた90歳近い高齢者に声掛けしたら、皆で行う食事会に喜んで参加してくれるようになった。
- 敬老のお祝いを配りながら、いざという時のご近所による見守り、見回りのマッチングの了解をいただけるような働きかけをしている。このマッチングにより早期に課題解決できた実績も生まれた。いざという時の助けあいは、災害時にも活用できる。
- 「他人に迷惑をかけられない」と考えている高齢者が多く、「自分で出来ます」「大丈夫です」との返事が。このような時でも、まずは話を聴いてあげることが大事。その積み重ねで、こちらにも心を開いてくれるようになる。
- 地域に町会の人などが集まる喫茶店があり、独り暮らしの人はよく来てくれる。ケアマネも来てくれて



いる。一人で家にじっとしていると誰ともしゃべらないので、仲間と一緒にたわいもない話などをして笑うのが良い。

地域で活動を

- 民生委員、町会、消防署の連携で、数件の訪問ができた。火災予防のためにもなり、この連携により家の中まで入れてくださる方也有った。
- いざという時に自治会として高齢者をどう守るか。自治会(マンション)内で安否確認を希望する人を登録(約40名)し、3か月に一度、役員が訪問を行っているが、訪問すると大変喜んでくださる。孤独死をきっかけに、自治会としてはじめた要支援活動(YS活動)である。高齢者中心の自治会活動だが、自治会加入率は72%である。

ケア24職員から一言

「行政の、また他人のお世話になりたくない」と訪問を断られる場合もあるのが現実。その中で、町会・自治会、地域の皆様が日常的に様々な機会を捉えて見守りをされていることを伺い、大変ありがとうございました。これからも地域の皆様との連携を深め、安心して暮らせるまちづくりに尽力して参ります。